

令和2年度 自己評価結果

認定こども園土崎幼稚園

大変よい：A よい：B 普通：C 一部検討を要する：D 改善を要する：E

評価項目	取組状況	評価
教育・保育目標について	建学の精神や教育目標について、園の目指す方向性は職員会議や園内研修の中で、話し合っている。全職員で共通理解するまでの話し合いの時間がないのが現状で、文書等を通して子どもの様子を伝え、同じ方向を向いて指導にあたるようにしている。社会の要請や保護者の願いを受け止めて、具体的な目標を話し合いって設定していく必要がある。	B°
指導について	子どもの実態に即した指導計画を作成していくことと、実践後の指導の改善に努めることに取り組んでいるが、環境を意識した指導方法や教材・教具の工夫について、やや評価が下がっている。 これまで行ってきた教育・保育環境をただ単に踏襲するのではなく、一人一人の子どもに合わせたものにしていく取組が求められる。	B°
教育週数・教育時間について	年度当初の計画に基づいて行われたが、4月下旬に新型コロナウイルス感染防止のため自粛登園を8日実施したが、40週を確保することができた。	A
新型コロナウイルス感染防止の行事について	行事については、新型コロナウイルス感染防止のため、予定していた行事を変更したり中止したりしてきた。 変更になった行事や中止になった行事を見直し、感染防止を考えた行事の在り方についてみんなで話し合い、内容のあるものに工夫して行い、子どもたちにとって良い行事となった。 コロナ流行のため以前のような地域の訪問等は難しいが、学年に応じた地域を活かした活動を考えていく必要もあると考えている。	A
分掌・体制について	職務内容が明確で、協働しながら行うように努めていて、体制としては仕事が一部に偏らないように配慮している。今年は、新型コロナウイルス感染防止のため変更になったため、仕事が増えてしまったところもあった。できるだけ担当者に負担が多くかからないように配慮していく必要がある。	B°
運営について	職員会議や学年等での打ち合わせについては、時間を厳守して時間内に終わることができるように更に努めているが、難しいので終了時刻をあらかじめ決めて、その時刻になったら止めて次回に回すか紙面などで伝える工夫も試みていきたい。今年は打合せ時間がとれなかったときは、プリントで伝えることができて良かった。	B°
学年・学級経営について	今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、密になることを避けた対応をしてきた。そのため異年齢との交流ができなくなり、朝の遊びで少人数での異年齢交流が見られる活動のみとなってしまった。コロナ対策で、活動の様子を写真に撮りホームページに掲載した。	B°

評価項目	取組状況	評価
保健・安全指導について	保健・安全については、月目標を設定して子どもたちにも意識できるように工夫している。今年は新型コロナウイルス感染防止のため常に意識して環境を整え、子どもたちにも伝えてきた。保護者の協力もあり、全園児がマスクを着用し手も良く洗っている。	A
園内研究・研修について	コロナで行事が変更せざるを得なくなり、感染を意識することなく活動できる場所はないか、どんな活動ができて新しい経験になるかを話し合った。そのため行事の内容について感染防止の面から話し合う時間が多く取られ、園内研修に十分時間をかけることができなかった。公開保育を行い保育研修を行ったことが良かった。	B
園外研究・研修について	園外の研究・研修については、一学期までは中止や開催日の変更があって参加できなかったが、二学期頃からは感染防止を徹底した対面研修やオンラインの研修に参加することができた。研修の内容については、大事なところは伝え合っている。	A
保育記録について	保育記録を毎日行っており、学級や学年間で情報を共有し、補助の先生たちからも記録をとってもらい、情報の共有に努めている。記録の取り方については、統一することなく各先生の工夫によって行われている。	B
安全管理について	遊具等は毎日点検し、危険な場所や遊びについて気を付けながら指導をしている。危険を予測して対応してきたが、怪我をしてから防止対策を施したこともあった。大きな怪我をしないよう常に気を付けていかなければならないと考えている。 今年是不審者対応の研修は、コロナで実施できなかったが、幼稚園の周辺や園内への不審者には、気を付け各先生方が子どもたちを守るためにどう動くのかを確認しておく必要がある。	B°
学校間交流・連携について	新型コロナウイルス感染防止のため、小学校や保育園との交流を行うことができなかった。学校だよりの交換で情報を確認できる程度であった。これからも流行が収まらない限り難しいので、小学校の様子を伝えていく活動を考えていく必要が出てきた。 10の姿の見える活動を工夫していくことも大切と考えている。	B
家庭・地域社会との連携について	園からの便りや担任と保護者との情報交換は密に行われていること、他専門機関との連携を図っていることはこれからも進めたい。 保育者の思いや意図が家庭へなかなか伝わらないことがあるので、伝え方を工夫していく必要がある。 今年、保護者の方から園内に入って見てもらうことは、なかなかできなかったが、密にならないようして参観をしてもらうことができた。また、ホームページに子どもたちの活動の様子をアップして見てもらうことができた。 保護者から育児に関する「子育て相談」の希望や個人面談を通して、子どもたちの情報を共有し、子育て支援の機能を持たせていきたい。	B°